

高機能性材料の——

TOMOEGAWA

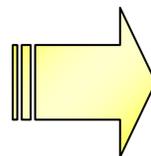
Global, Growth, Group

機関投資家向け説明資料

2013年8月

	当社グループ概要
	足元の状況と数値目標
	対処すべき課題
	グローバル戦略について
	研究開発戦略

名称：株式会社巴川製紙所
創業：1914年（大正3年）6月19日
資本金：28億9,495万円（東証一部上場）
売上高：347億（2013年3月期連結）
代表取締役社長：井上善雄
従業員数：1,191名（2013年3月末連結）



2014年 創業100周年

主な事業内容：
半導体関連製品、FPD関連製品、
化成品（トナー）、特殊紙・加工紙の製造・販売

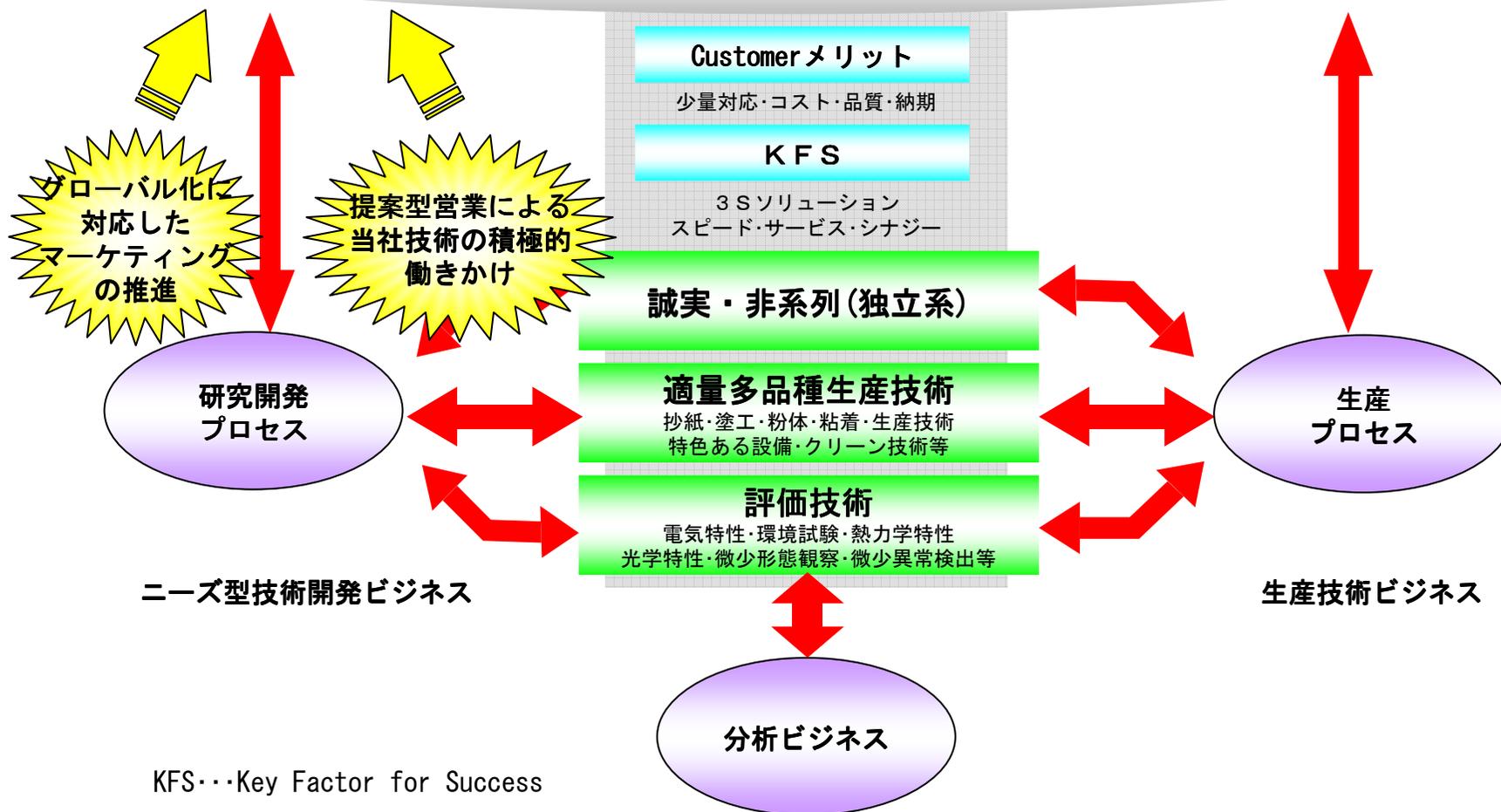
所在地：本社/東京都中央区京橋1-7-1
静岡事業所/静岡県静岡市駿河区用宗巴町3-1
清水事業所/静岡県静岡市清水区入江1-3-6
大阪営業所/大阪府大阪市生野区桃谷1-3-23

全社戦略構想

製品を売る会社から
プロセス(研究開発/製造/品質保証)を売る会社へ

Innovative Customers

OEM Customers



KFS...Key Factor for Success

特殊紙時代

1914年：初代社長井上源三郎、現静岡市清水区に巴川製紙所を創設、電気絶縁紙・電気通信用紙の研究を開始
1917年：株式会社巴川製紙所を設立
1933年：現静岡市駿河区に用宗工場を新設
1945年：クラフトパルプの自社生産を開始
1949年：用宗工場内に技術研究所を設立
1958年：新宮工場内に抄紙機を設置、パルプから紙への一貫体制を確立

情報記録媒体時代

1960年：静岡工場に加工紙工場新設
1961年：東証一部上場
1963年：トナーの開発を開始、67年商品化、量産開始
1969年：磁気記録媒体の上市

エレクトロニクス時代

1978年：アメリカに現地法人設立、81年トナー生産開始
1984年：オランダに現地法人設立、トナー販売を開始
1988年：トナー製造部門が化成品工場として独立
1989年：清水事業所に半導体関連製品工場設置
1992年：静岡工場内に偏光板粘着加工の工場を設置
1995年：パルプ事業撤退(新宮工場閉鎖)

FPD時代

2001年：静岡事業所にFPD用光学フィルム及び半導体関連製品の工場を新規設置
2004年：香港にトナー販売用現地法人設立
2005年：中国惠州に現地法人設立、翌2006年トナー生産開始
2007年：福井県敦賀市にFPD向け光学フィルム工場設置
2010年：凸版印刷株式会社と合併でLCD用反射防止フィルムの製造会社設置

新展開へ

2011年：中国九江市にトナー関連現地法人設立
2012年：Aura Paper Industries (India) Pvt. Ltd.に出資
2014年：創業100周年

1914-18年：第一次世界大戦
電気絶縁紙・電気通信用紙の輸入が滞る

1939-45年：第二次世界大戦

1950-53年：朝鮮戦争

60年代：複写機登場

1965-70年：いざなぎ景気
1973年：変動相場制移行
：第一次オイルショック

70-80年代：日本製複写機世界市場席卷

：磁気乗車券用改札機普及
1979年：第二次オイルショック
1985年：ハイテク景気

：プラザ合意
1987-91年：バブル景気

90年代末：金融危機

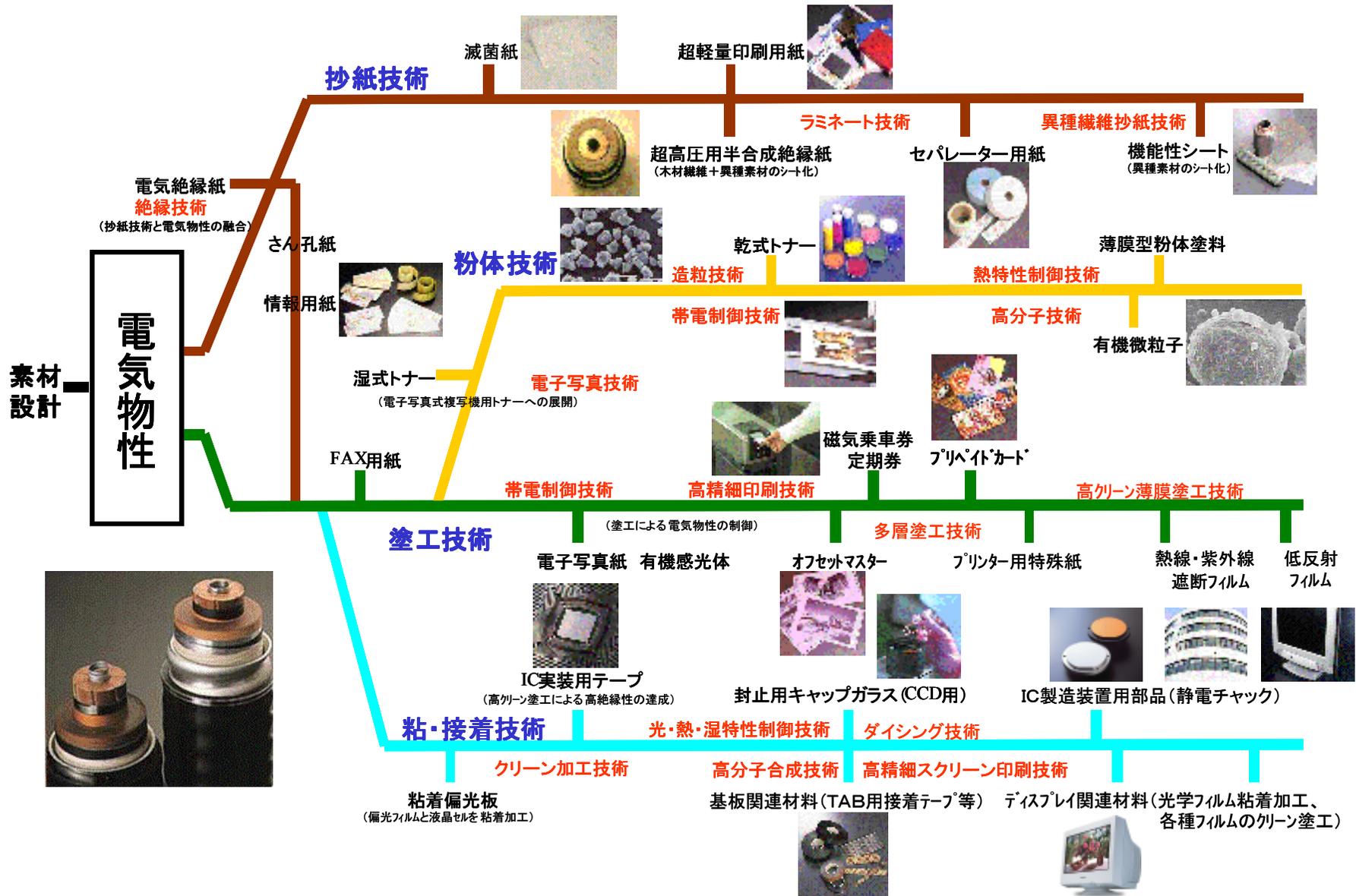
2001年：ITバブル

00年代：中国が貿易相手国第一位に

2000年～：液晶テレビ生産本格化

2008年：リーマンショック

2011年：東日本大震災

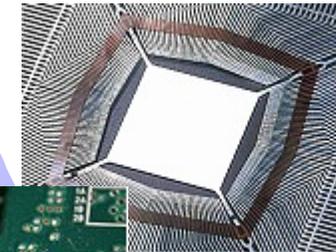




超高圧用半合成絶縁紙
製紙・塗工紙
関連事業
約135億



ディスプレイ用光学粘着



IC実装用テープ



磁気乗車券
定期券



2013年3月期
売上高
347億

プラスチック材料
加工事業
約212億



基板関連材料(TAB用接着テープ等)



トナー



IC製造用部品(静電チャック)

事業体制と主要製品



事業分野	主要製品	事業部	主なグループ会社	
FPD 関連製品	LCD及びPDP向け光学粘着 LCD向け光学フィルム	精密塗工事業部	(株)TFC	日本ゼオン(株)との合併会社 光学フィルム等の製造
			(株)トッパンTOMOEGAWA オプティカルプロダクツ	凸版印刷(株)との合併会社 LCD向け光学フィルムを製造
			日本理化製紙(株)	粘接着材料品の製造・販売
磁気記録材料	ガムテープ 磁気乗車券・プリペイドカード			
半導体 関連製品	基板材料 (TAB用接着テープ) パッケージ材料 (LF固定用テープ) 半導体製造装置用部品 (静電チャック) 光センサー部品・気密封止用接着剤	電子材料事業部	該当なし ※子会社である(株)テクニカ巴川は(茨城県潮来市)は、 全社最適な生産体制を指向する中で、 2013年3月31日をもって解散いたしました	
微粒子製品	トナー	画像材料事業部	TOMOEGAWA (U. S. A) INC.	北米製造・販売拠点
			TOMOEGAWA EUROPE B. V.	欧州販売拠点
			巴川影像科技(惠州)有限公司	中国製造拠点
			巴川香港有限公司	中国販売拠点
			日彩影像科技(九江)有限公司	中国製造・販売拠点 (2011年設立)
特殊紙 機能紙	電気絶縁紙・超軽量印刷用紙 滅菌袋用紙・通帳用紙 剥離紙・機能性シート	機能紙事業部 (予定※)	新巴川製紙(株) ※	洋紙・機能紙製品の製造・販売
			三和紙工(株)	特殊紙・機能紙製品の製造・販売
			Aura Paper Industries (India) Pvt. Ltd.	インド・絶縁紙の製造販売

※新巴川製紙(株)は、分散する経営資源の統合により事業の一層の強化を図るため2013年10月1日をもって本体と統合いたします

	当社グループ概要
	足元の状況と数値目標
	対処すべき課題
	グローバル戦略について
	研究開発戦略

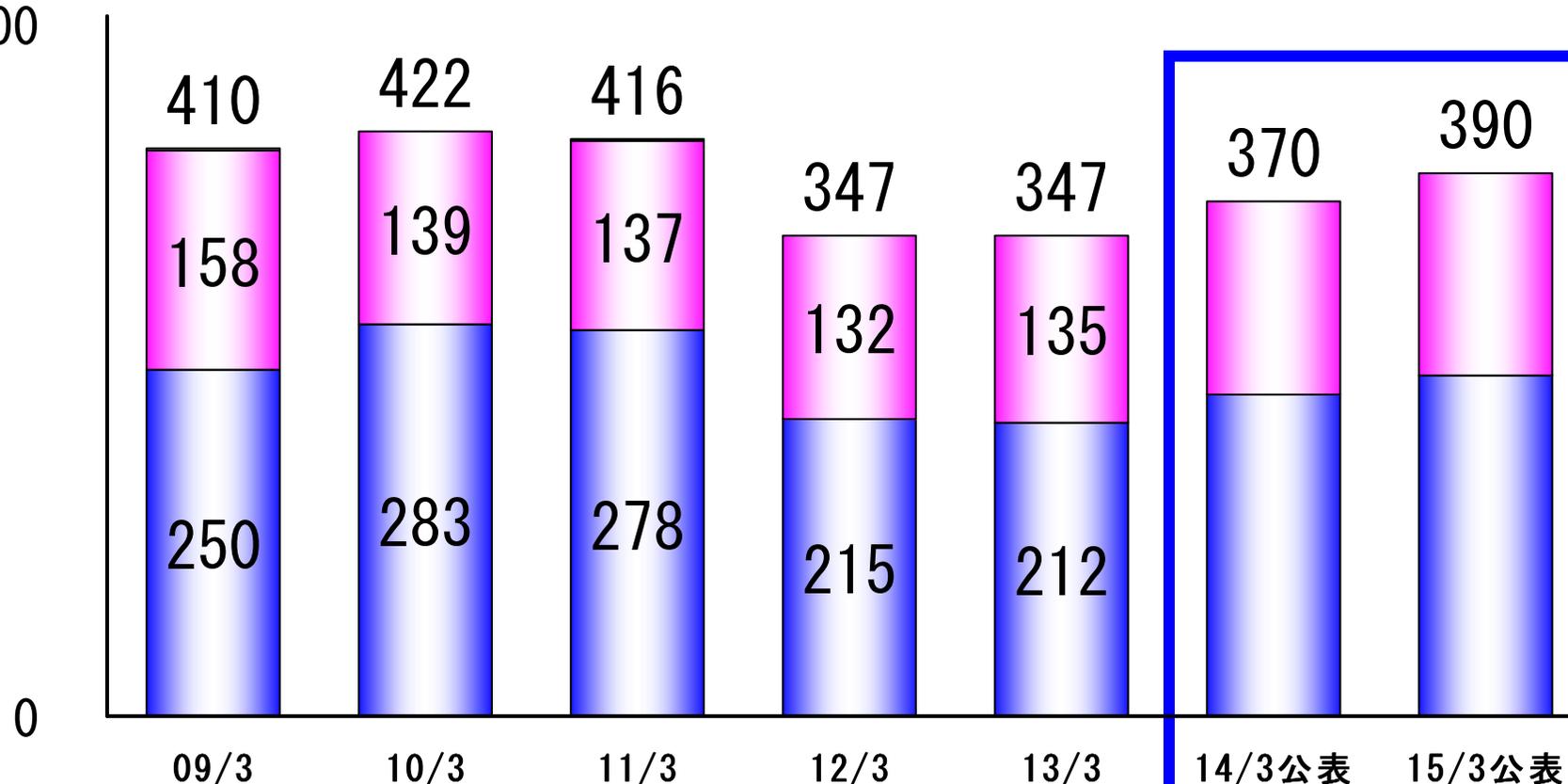
連結売上高推移と目標値

2013年3月期の連結売上高は対前年度横這いの347億2千2百万円

第5次中期経営計画最終年度である2015年3月期には連結売上高390億円を目指す

(億円)

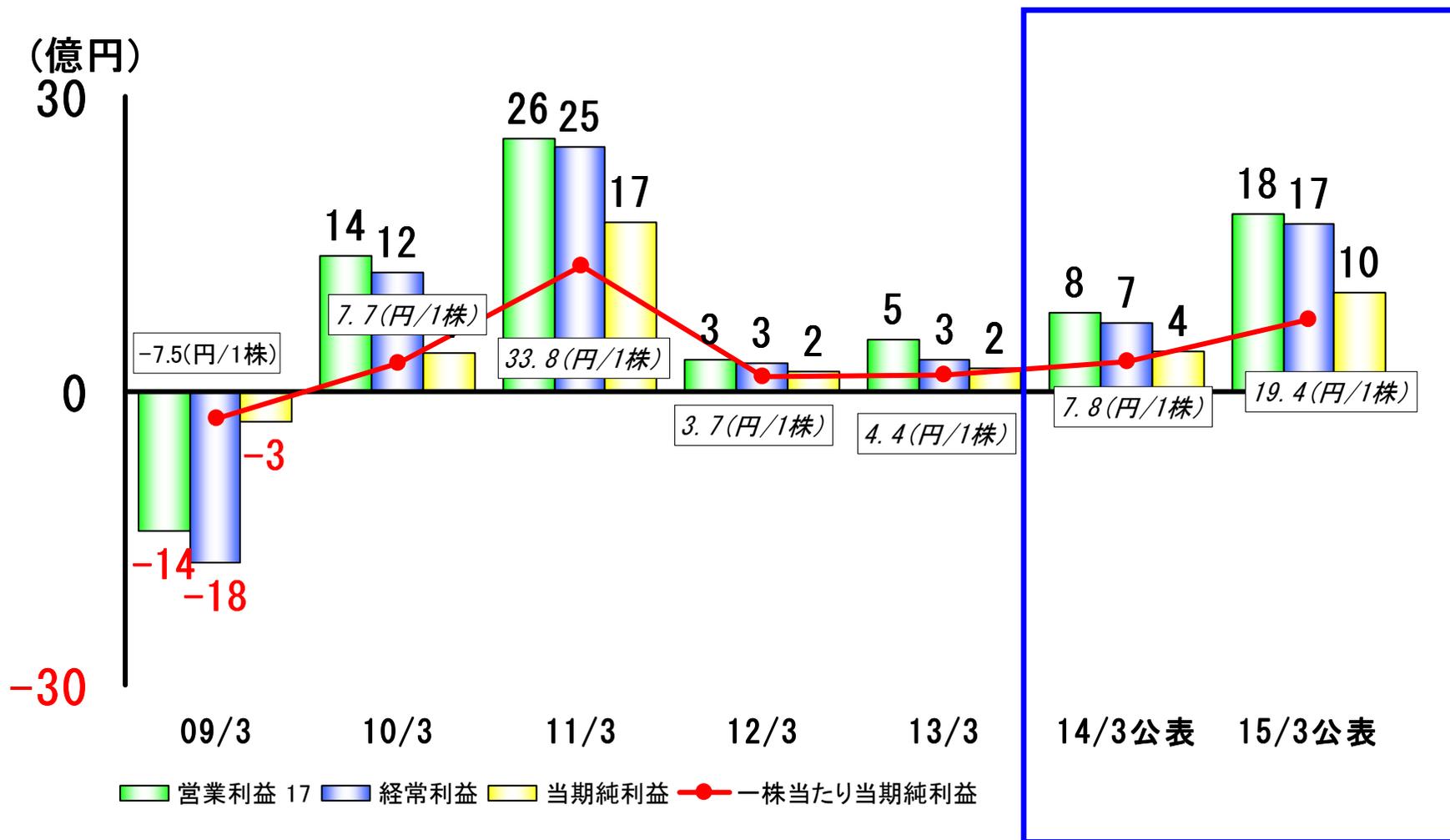
500



■ プラスチック材料加工 ■ 製紙・塗工紙関連 ■ その他

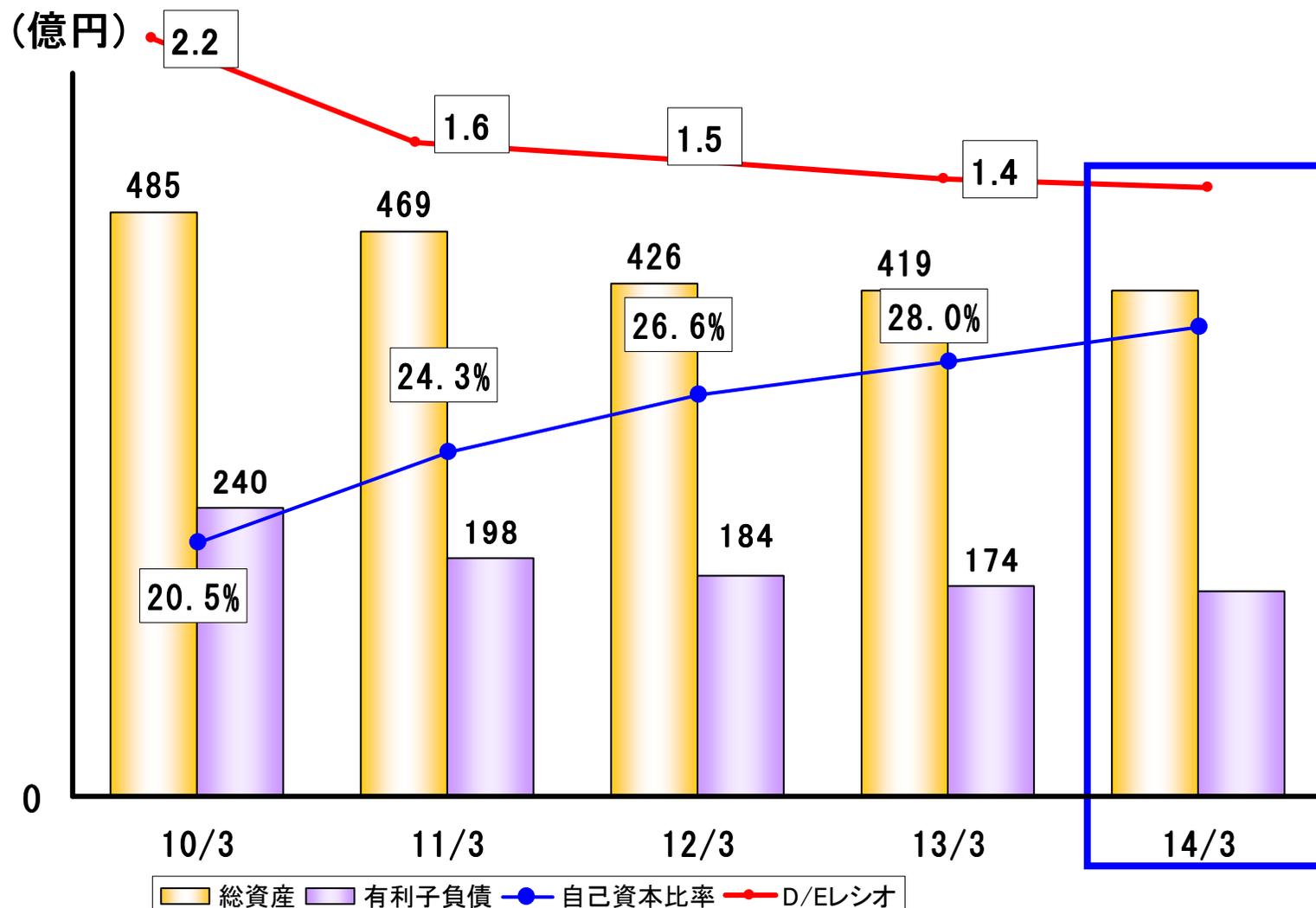
連結利益推移と目標値

2013年3月期は対前期で若干の増益、引き続き海外展開の加速による売上増と世界基準で戦える労働生産性の実現により、増益基調の定着を目指す



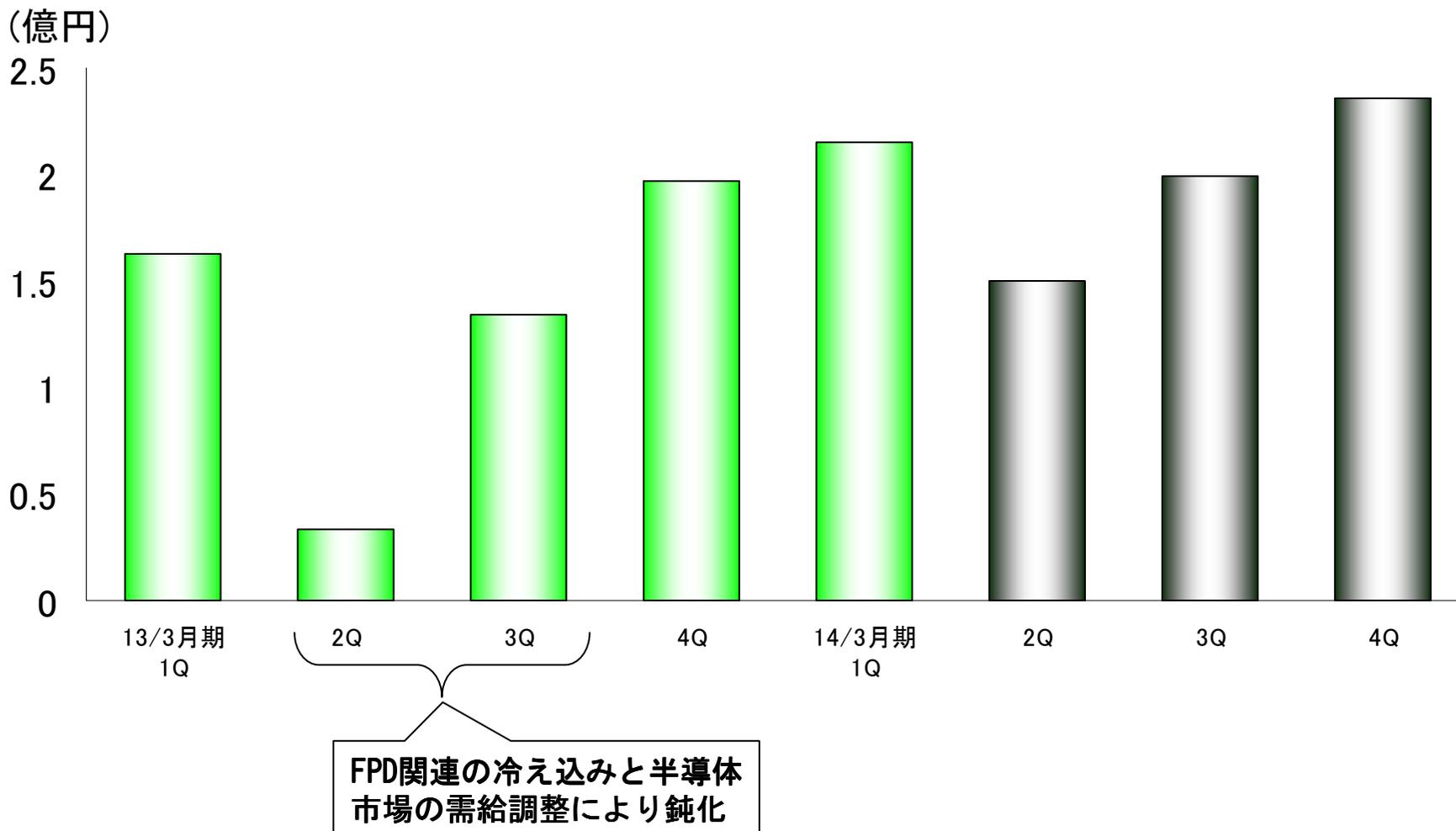
財務状況推移

有利子負債の削減が進み、自己資本比率・D/Eレシオの改善が進む
引き続き、更なる財務体質の改善を目指す



連結営業利益推移

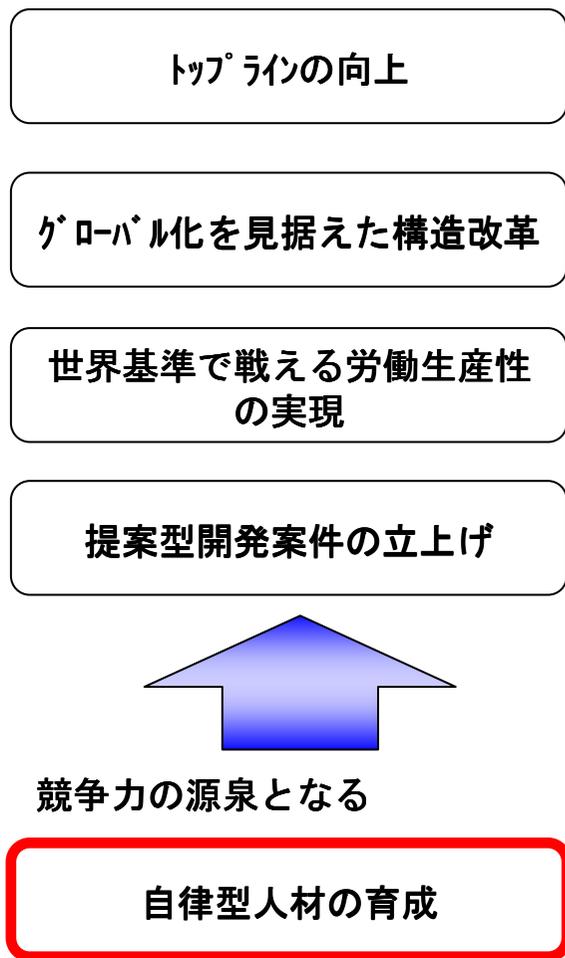
- ✓2014年3月期の第1四半期は対前年度減収ながらも、ほぼ計画通りに推移
- ✓年度後半に織り込んでいる開発成果の実現も含め、通期公表値(営業利益8億円)達成を目指していく



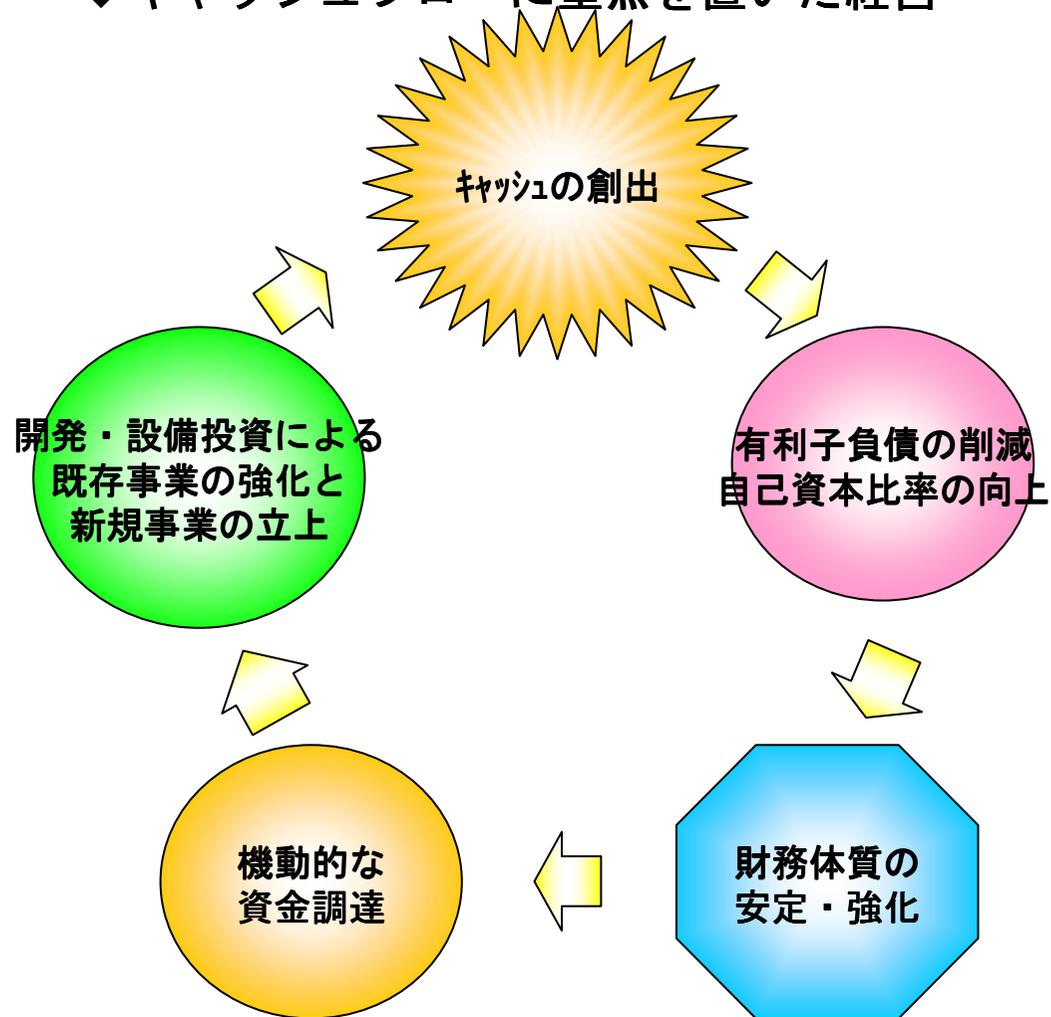
	当社グループ概要
	足元の状況と数値目標
	対処すべき課題
	グローバル戦略について
	研究開発戦略

2014年の創業100周年に向けて次の50年を生き抜く為の礎を築く

◆5次中期計画 5つの主要課題



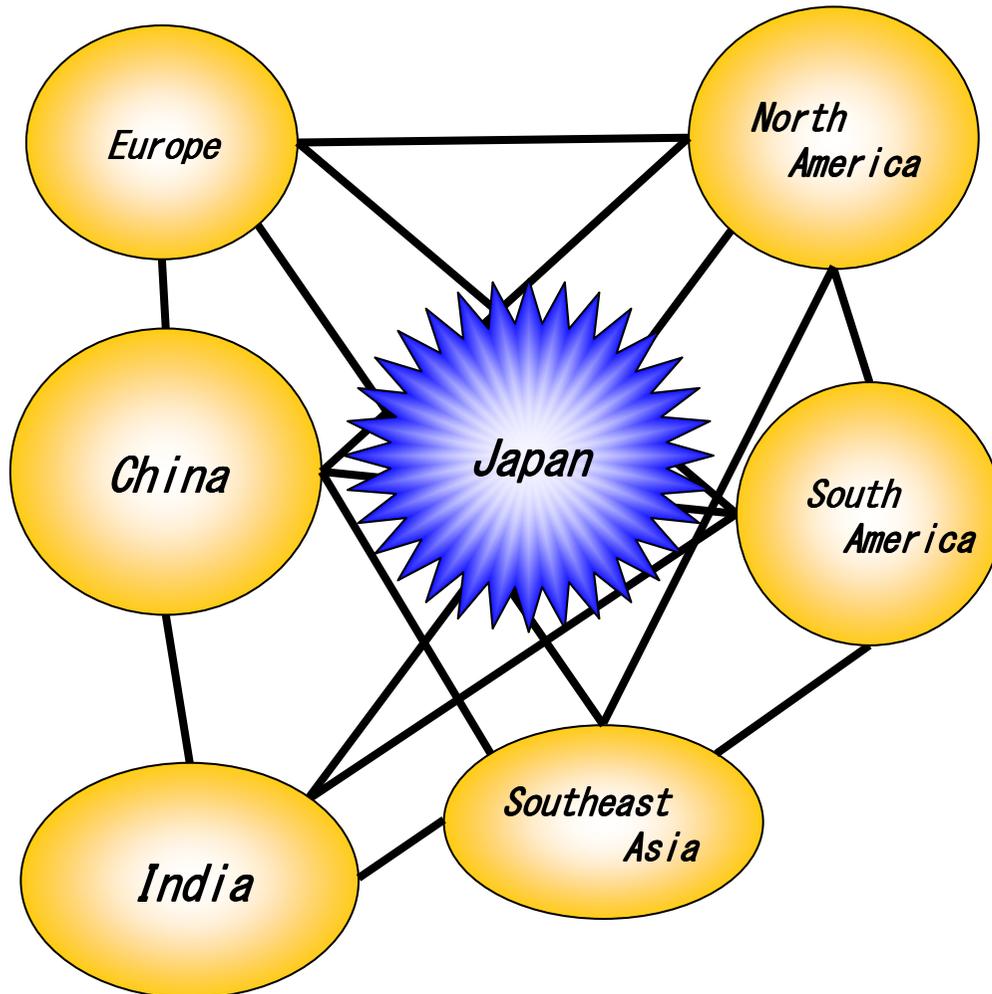
◆キャッシュフローに重点を置いた経営



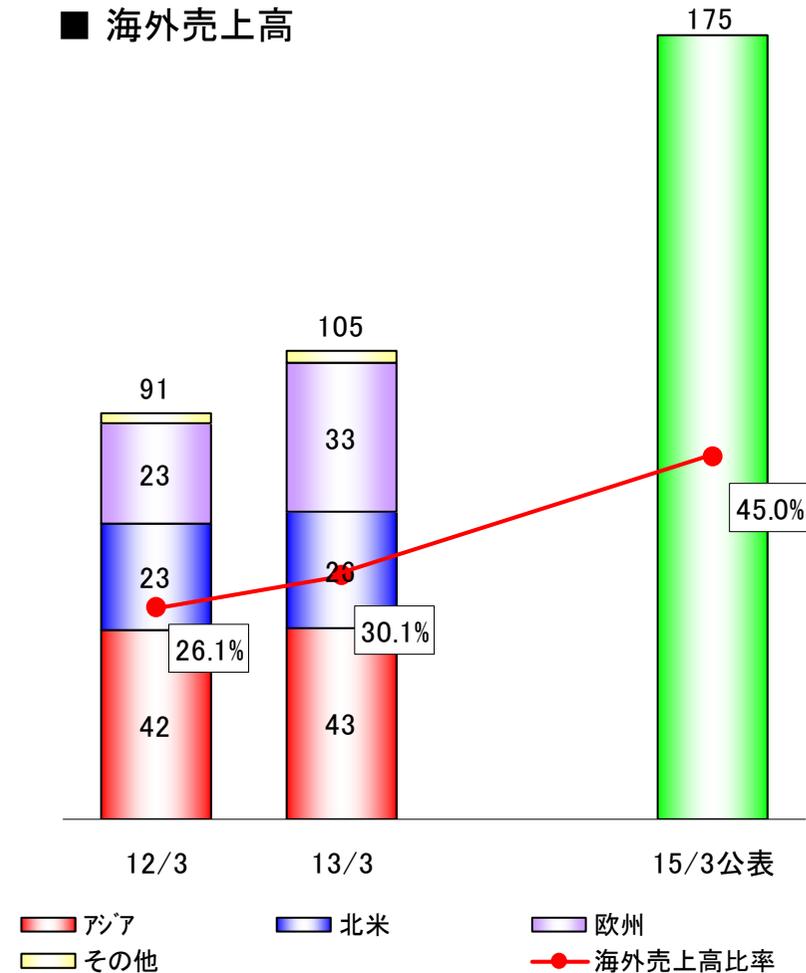
	当社グループ概要
	足元の状況と数値目標
	対処すべき課題
	グローバル戦略について
	研究開発戦略

◆グローバル化を見据えた構造改革

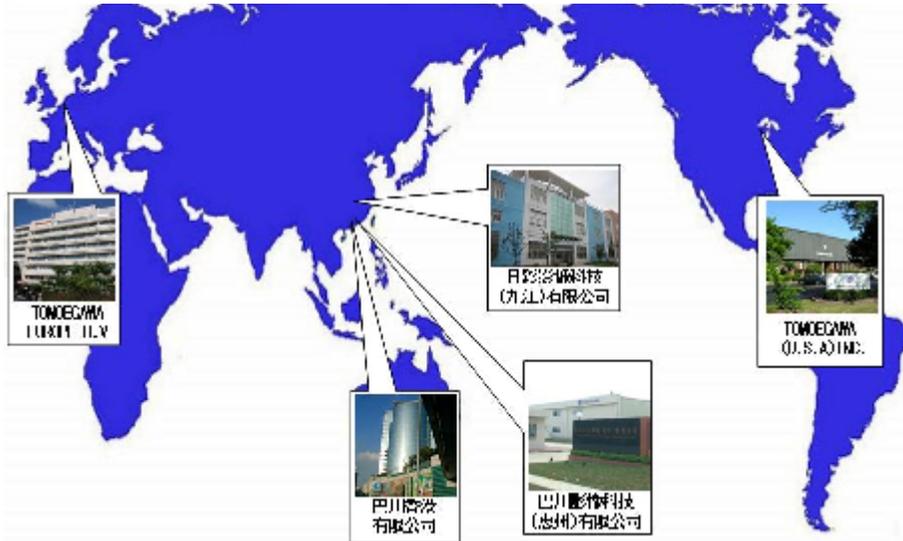
- ✓日本は高度な技術力と開発力を結集させたグローバル戦略のコアとなるマザー工場
- ✓各拠点間が有機的に結合し、ワールドワイドに展開する



■ 海外売上高



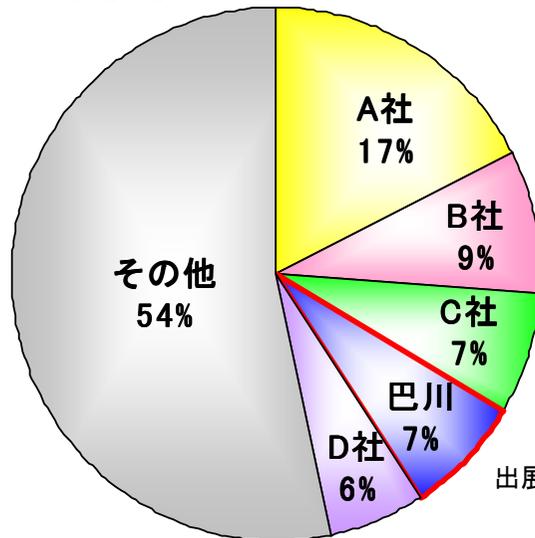
◆グローバル化を見据えた構造改革(トナー事業の例)



弊社トナー生産拠点	量産開始	所在地
Tomoegawa (U. S. A) Inc.	1978年	アメリカ イリノイ州
巴川影像科技(惠州)有限公司	2006年	中国広東省 惠州市
日彩影像科技(九江)有限公司	2011年	中国江西省 九江

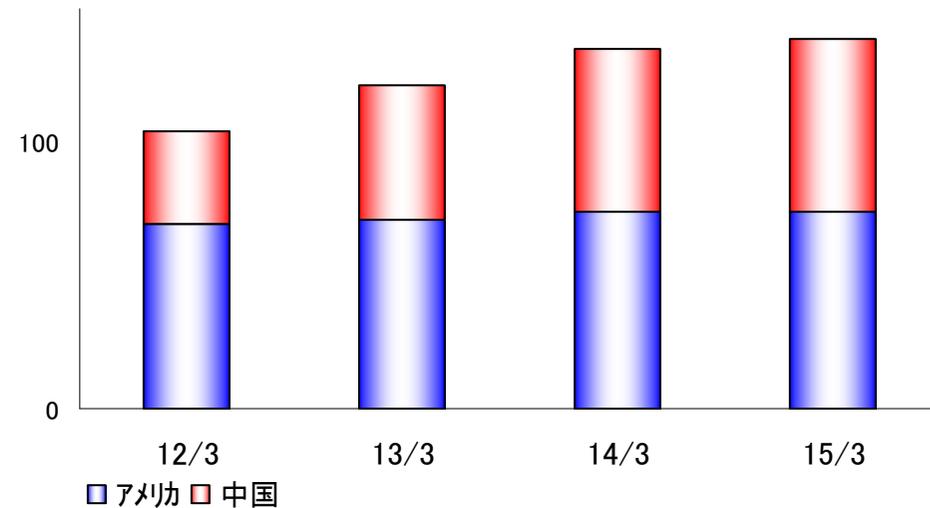
弊社トナー販売拠点	所在地
Tomoegawa (U. S. A) Inc.	アメリカ
巴川香港有限公司	香港
Tomoegawa Europe B. V.	オランダ
日彩影像科技(九江)有限公司	中国江西省 九江

■ トナー市場世界シェア



出展: 調査会社による推計 (2012年度)

■ 海外生産量



※12/3月期を100とした場合の生産量推移

	当社グループ概要
	足元の状況と数値目標
	対処すべき課題
	グローバル戦略について
	研究開発戦略

◆提案型開発案件の立上

- ✓顧客ニーズを先取りした自発的提案
- ✓将来に向けた新製品、新技術の開発

•2015年3月期目標



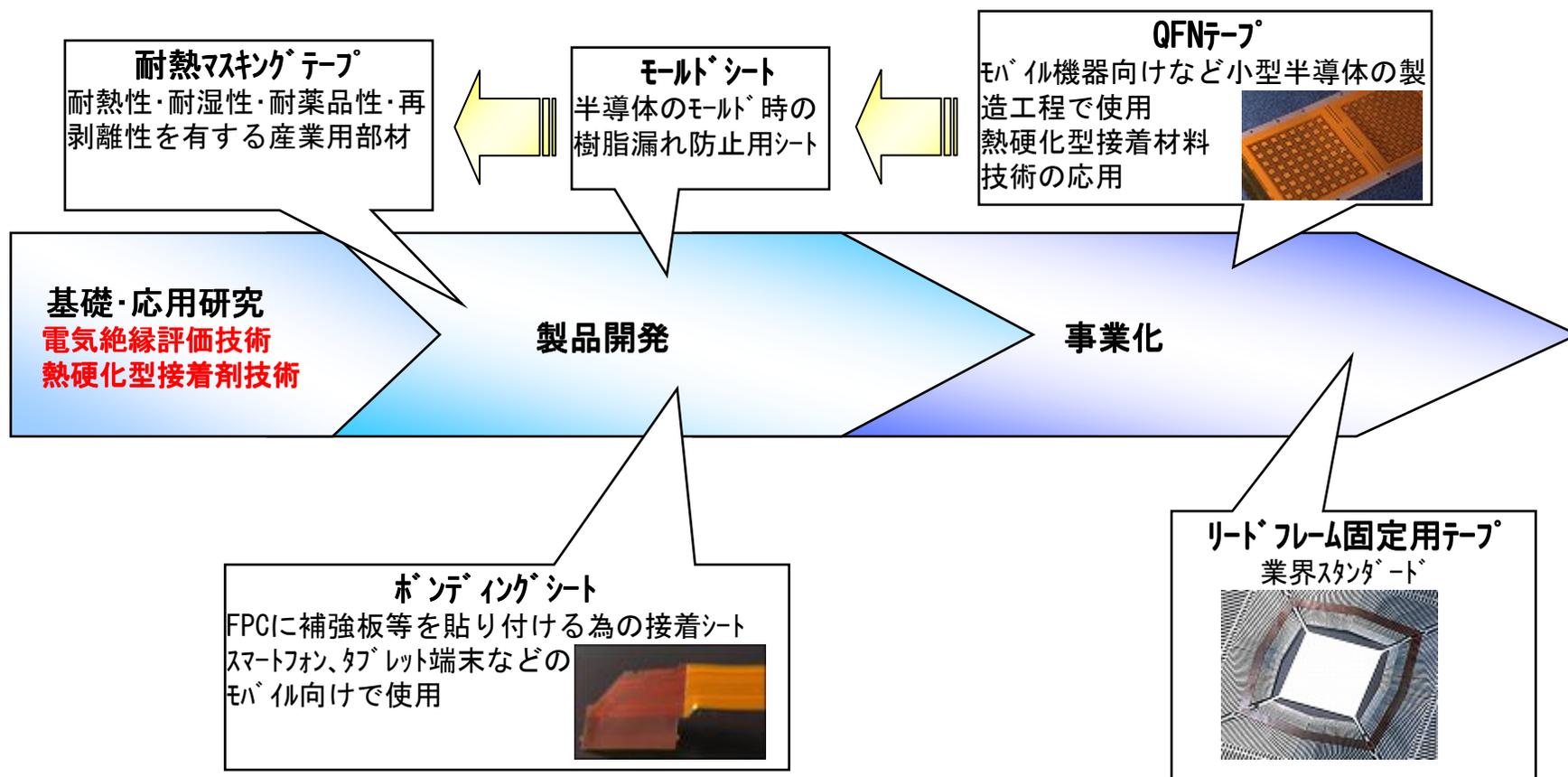
◆研究開発費内訳

✓中期経営計画では、機能紙分野に加え、電気・電子材料分野の開発案件に注力しております

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期
研究開発費	981百万円	1,059百万円	1,154百万円
(連結売上高に占める割合)	2.4%	3.1%	3.3%
プラスチック材料加工事業	555百万円	589百万円	604百万円
製紙・塗工紙関連事業	69百万円	83百万円	128百万円
コーポレート開発	355百万円	386百万円	421百万円
研究開発要員	104名	113名	125名

➤ 電子材料事業

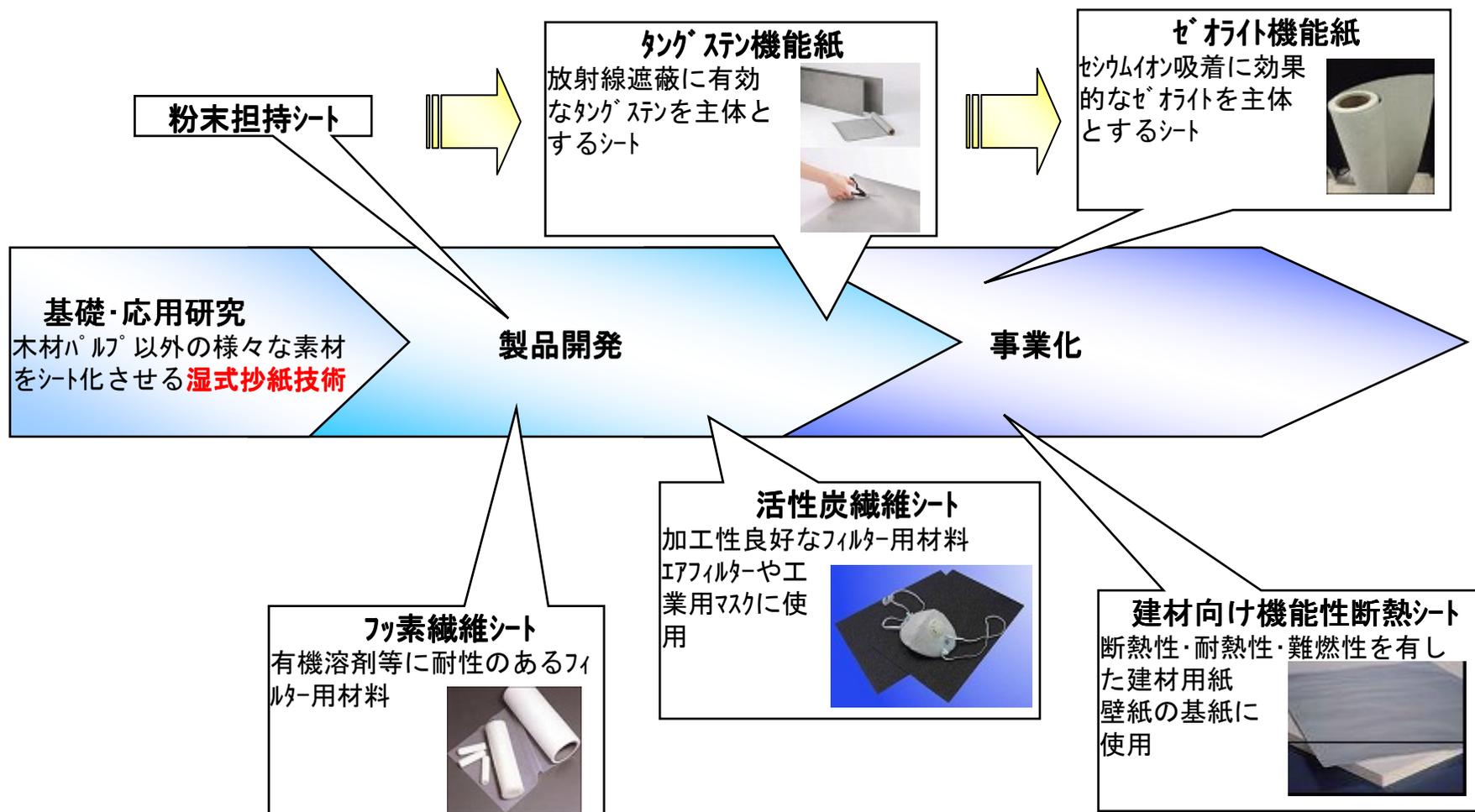
- ✓ 新たに事業の柱となる製品の開発に注力
- ✓ 半導体実装材料に加え、電子電気部品の製造工程を新たな注力分野に



<半導体実装材料>

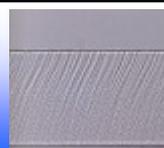
➤ 機能紙事業

✓ 新規案件が事業化ステージに移行しつつあり、2013年3月期の業績にも貢献



➤ その他開発案件

✓ 中長期的な視点からの新製品・新技術開発

	用途	コア技術と展開
LCD向け反射防止フィルム 	液晶ディスプレイ表面におけるキラツキや映り込みを防止	塗工技術、粘・接着技術 凸版印刷社とのJV事業
電磁波ノイズ抑制シート 	携帯端末、コネクタからの電磁波発生の抑制	スリ塗工技術 原価低減にも努め、開発段階から事業化フェーズへと移行
ライトコントロールフィルム 	次世代ディスプレイをターゲットとした外光視認性に優れた反射型LCFを提供	塗工技術の応用で異方性散乱を実現
蓄電デバイス用・電極への塗工技術 	電極製造において当社の製造技術を提供	スリ塗工技術 大手がスモーカーのエアウォーター社とのJV事業 高品質の電極を安価に製造できる体制を用意
光インタフェース部品 	省スペース化・作業性向上に繋がる光ファイバ配線接続	塗工技術 光通信分野への展開
粘着開発の展開 	耐熱保護フィルム・硬化粘着 タッチパネル周辺部材・偏光板粘着 窓貼りフィルム粘着etc	FPDで培った光学粘着技術を、様々な電気電子分野に展開

◆ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。